



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

第39回 阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業 講演会「平和と俳句」開催 〈芦屋ユネスコ協会当番〉

8月1日(水)、ラポルテホールを会場に第39回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業として、芦屋在住の俳人・稲畑汀子氏(伝統俳句協会会長)をお迎えし、講演会「平和と俳句」を開催しました。

今回は、芦屋ユ協が当番を務め、事前に阪神間の各ユ協から「平和」をテーマとした俳句を募集、55句の投句をいただきました。

講演では、昨年4月に俳人協会・国際俳句交流協会・日本伝統俳句協会・現代俳句協会の日本を代表する俳句4団体が、「俳句をユネスコの無形文化遺産に登録しよう」との目標を掲げて、登録を目指す推進協議会を設立されたことを紹介。その代表である国際俳句交流協会・有馬朗人会長(元東京大総長・文相)は、「俳句で世界を平和に!」と提唱されており、俳句の平和性について『身近な自然を観察することは自然保護の心にも繋がり、人々の相互理解を生み、ひいては世界の平和へとつながる』と、俳句の平和性について述べられました。

俳句の国際性についても、国内での外国のかたたちとの句会を実践されていることや、海外での経験や事例を挙げながら話されました。また、後半には、阪神間の各ユ協の俳句を1句



1句詠みあげ、「季語」の果たす大切な役割について話され、季語のない句については具体的な季語を示され、会場からの質問にも丁寧に受け答えしてくださいました。

阪神間ユネスコ協会の皆様とともに、「俳句で世界を平和に」と願いつつ、俳句をユネスコの無形文化遺産に登録する支援の輪を広げていけると願っています。

2018年度 芦屋ユネスコ協会 「平和の鐘を鳴らそう！」行事開催



後それぞれの思いを込め「優愛の鐘」を高らかに鳴らし、平和への誓いを新たにしました。

本年も、73年目の終戦記念日に当たる8月15日(水)、芦屋ユネスコ協会が主催、芦屋市・芦屋市教育委員会が共催して、「平和の鐘を鳴らそう」行事を盛大に実施しました。

第1部では、芦屋市民センター玄関横に設置された「優愛の鐘」を、佐藤副市長をはじめ、芦屋ユネスコ協会会員やその家族、また市民など約50人の皆さんが集い、『平和の祈りと願い』を込めた行事を実施しました。

佐藤副市長のご挨拶の後、参会者全員でユネスコの「平和宣言」を唱和し、正午のサイレンとともに黙祷、その後



8月16日(木)

享月

日

癸卯

第...



平和への願いを込めて「優愛の鐘」を鳴らす参加者
=いづれも芦屋市業平町

平和祈る 鐘の音



戦時中に食べた、すいとんやふかし芋を味わう参加者

芦屋

終戦の日、芦屋市業平町の市民センターでは、戦争の記憶を語り継ぐと、芦屋ユネスコ協会の呼びかけで、平和を願う集いが開かれた。

終戦の日
すいとん
戦時中思い

市民ら約50人が正午のサイレンを合図に黙祷。塩井努会長が「平和への願いを確認し、志を高く掲げたい」とあいさつし、一人ずつ敷地内の「優愛の鐘」を鳴らして平和を祈った。

戦時中の学童疎開を振り返るビデオを鑑賞し、当時、食べていたサツマイモのつるや、すいとん、ふかし芋を味わった。

祖父と母、姉の4人で来た芦屋市松ノ内町の小学4年生、由里袖葉さん(10)は「お母さんと離れて暮らすのはいやだなと思う。人が殺し合う戦争が、なくなつてよかった」と話した。

(菅探寿)



第2部では、精道国民学校学童 223 人、宮川国民学校学童 207 人が、岡山県(現・高梁市)に学童疎開した時の記録DVD「集団疎開」を觀賞。続いて、市民の皆さんによる「語り継ごう『私たちの戦争・戦後体験』」では、兵庫県文化の父と称され、亡くなるまで芦屋に住まれた詩人・富田碎花さんが死の直前までの 20 数年間、被爆者への募金を続けていたというエピソードや、市内在住の被爆者 2 世でもある千葉

孝子さんからご自身の被爆体験など、貴重な体験談が語られました。

また今回は、芦屋ユ協の理事の皆さんや公民館グループのご協力ですいとんや芋蔓・ふかし芋・おにぎりなどが提供されましたが、参加された皆さんは戦後の人々の暮らしに思いを馳せながら提供された食べ物を食べつつ、貴重なお話に熱心に耳を傾けていました。



尊い平和 心に刻む

終戦記念日 各地で行事



2018年(平成30年)8月16日(木曜日)

記 宣 楽 斤

芦屋市民センター(業平町)では芦屋ユネスコ協会と市、市教委が追悼行事を開催。参加者約50人が黙とうし、平和を願う「優愛の鐘」を鳴らした。その後、記録映像の鑑賞や戦時中の体験を聞きながら、すいとんやふかしイモを食べた。中2の時から軍需工場で働き、15歳で終戦を迎えた由里正雄さん(88)(春日町)は「ふかしイモは食べられ

たらいい方で、すいとんもこんなにおいしくはなかった。食べる物も着る物もなかった」と振り返り、「戦争の悲惨さを知るからこそ、平和のありがたみがわかる」としみじみ語った。宝塚市中央公民館(末広町)であった「終戦記念日のつどい」には、市民ら約200人が参加。悲惨な戦争は二度としないことを誓った。

まず、中川智子市長が「あの戦争で多くの人たちが未来を奪われ、大切な家族を思いながら無念の死を遂げた。平和は自分たちの言葉で、動きでしっかりと作り出していかなければならない」とあいさつ。

今年春に修学旅行で沖縄を訪れた市立宝塚中3年の女子生徒が「本当に平和な世界を作るためにも、沖縄の地上戦のことを忘れず、犠牲になった命をエネルギーに変えて後世に伝えることが一番大切」と話するなど、4人が平和のメッセージを述べた。

芦屋で戦争の記憶語り継ぐイベント

終戦の日の15日、戦争の記憶を語り継ぎ、平和について考えるイベント「平和の鐘を鳴らそう！」が、芦屋市業平町の同市民センターであった。参加者約50人

が同センター前の鐘を鳴らした後、戦時中の食事を食べながら体験者の言葉に耳を傾けた。

(齊藤絵美)

平和祈り鐘鳴らす



親子三代で参加した由里さん一家。ふかし芋などの戦時食を食べた。いずれも芦屋市業平町

戦時中の食事体験も

はんしん 戦後73年

芦屋ユネスコ協会や同市などが毎年、終戦の日に合わせて開催している。

参加者は正午のサイレンに合わせて黙とうし、同センター玄関前の「優愛の鐘」を順々に打ち鳴らした。

その後、学童疎開を取り上げた映像を観賞。有志が作った「すいとん」やふか

第2部の最後のプログラム「みんなで『平和のうたを歌いましょう』」では、ピアニストの金澤理事による演奏で、声楽家の加藤理事が「みかんの花咲く丘」やカタロニア民謡「鳥の歌」を歌唱指導くださり、例年のように浅田事務局長の指導による手話歌「ともだち讃歌」(アメリカ民謡)を参加者全員で歌いました。

年々参加者の年齢も高くなり、また年々減少傾向にもありますが、今後は平和への誓いを語り継ぐべき次世代の子どもたちの参加推進に取り組み、参加者数の増強にも一層努めていきたいと思いました。



平和を祈り、鐘を鳴らす参加者たち

し芋などを食べながら、当時の体験を語り合った。芦屋市春日町の由里止雄

さん(88)は疎開先で終戦を迎えた。「元の生活に戻れる。もう戦争に行かなくて



いと喜んだ」と振り返り、「戦争の惨禍を知ってほしい。知らない平和のありがたさが分からない」と話した。
一緒に参加した由里さんの孫で、同市立山手小学校4年の柚葉さん(10)は「お母さんと離れるのは嫌なのに、学童疎開した子どもは強いと思う。戦争は想像もできないけれど怖い嫌だ」と話した。

「平和の鐘を鳴らそう！」行事

終戦73年

平成最後の「終戦の日」を迎えた15日、県内各地でも追悼式や関連行事があり、遺族や市民らが戦没者に祈りをこぼした。悲惨な記憶が遠のく中、戦争を体験した人は「後世にしっかりと受け継ぐ」とたゆまぬ努力を決意し、若い世代も平和な世界を強く願った。

ふかし芋・すいとん 戦時中の食事体験

芦屋

芦屋市民センターでは、鐘を鳴らして平和を祈る催しが行われた。市民ら約50人が参加し、戦時中の食事も体験した。写真。

芦屋ユネスコ協会などが平成25年から毎年実施。参加者は正午のサイレンに合わせて黙禱し、センター前にある「優愛の鐘」を鳴らして平和を願った。

その後、参加者はセンター内に移動。戦時中の食事を再現した「ふかし芋」や野菜ばかりの「すいとん」などを食べながら、市立精道小学校の児童が岡山県に集団疎開した際のドキュメンタリー映像を観賞するなどした。



京都で終戦を迎えたという芦屋市の主婦、青山睦子さん(81)は「終戦の日を迎えると、空襲警報の音を聞いて防空壕に入った当時は思い出す。戦争は二度と繰り返してはいけない」と話した。

報告 キッズスクエア 出前講座



この夏、芦屋ユネスコ協会では『あしやキッズスクエア』の体験プログラムに取り組み、岩園小学校と精道小学校において出前授業を行いました。今回は初めての試みで反省すべき点は多々ありますが、今後、創意工夫をこらした活動を行うことで、子ども達のユネスコ運動への関心や理解が深まるものと思われました。

参加した子どもたちは、最初に塩井副会長からユネスコの活動についてのお話を聞き、その後、世界遺産の紹介DVDを鑑賞、最後は「ユネスコクイズ〇か? ×か?」で楽しみました。

◆キッズスクエア岩園 <8月23日(木)午前10時~11時/参加者:児童14名・大人4名>
当日は、台風が近づいており午後から警報が発令されてキッズスクエアが中止になるなど実施が危ぶまれましたが、集まった子どもたちはたいへん興味を持って話や映像を楽しんだりしました。ユネスコクイズではクイズの答えに一喜一憂。最後は全員でユネスコの6つの約束事を唱和しました。大人からも、「出前授業でユネスコ活動を初めて知りました」とか、「ためになりました」との感想をいただきました。1時間でしたが、和気あいあいとした時間を過ごしました。

【塩井副会長・青木常任理事・松沢常任理事・藤井常任理事・松本理事】
◆キッズスクエア精道 <8月30日(木)午前10時~11時/参加者:児童10名・大人4名> 暑い中ですが夏休み最後の週ということもあり参加者が少なかったのですが、市内どの学校も寺子屋運動に取り組んでいることもあり、聞いている子どもたちから「知っているよ」「学校にある」とか、世界遺産の厳島神社や姫路城を紹介した時には「行ったことがある」などとつぶやきが漏れ、興味を持って聞いている様子がかがえました。全校生対象の出前授業と違い、今回は参加者が少人数であるため一人一人に声掛けし反応を見ながら丁寧に説明ができました。ユネスコの活動について知ってもらったり、理解を深めてもらえる良い機会になりました。
【塩井副会長・青木常任理事・藤井常任理事・松本理事】

◆あしやキッズスクエア◆
芦屋市では、文部科学省「放課後子供教室事業」に基づき、小学校を利用して放課後・春休み・夏休み・代休日の子どもの居場所づくり事業として、平成27年度から『あしやキッズスクエア』を行っています。
『あしやキッズスクエア』は市内8小学校で実施されており、児童が自分たちで考えて遊びや勉強や読書等を行う居場所づくり機能と、地域の多様なかたがたや企業団体などの参画を得て、児童がスポーツや文化活動などに取り組む体験プログラム機能を併せ持った事業です。

芦屋ユネスコ協会「年末講演会&親睦会」ご案内

早いもので、いよいよ今年も年末が近づいてまいりました。

平成30年度も、恒例となりました芦屋ユネスコ協会主催の「年末講演会&親睦会」を下記のとおり開催いたします。会員の皆様はもとより非会員のご家族やご親戚・ご友人・お知り合いなど多数お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

- ◆日時 12月18日(火)午後6時～8時30分 <※午後5時30分・受付開始>
- ◆会場 ホテル竹園3階
- ◆内容 ①講演…政府代表 / 外務省特命全権大使 石川 和秀 様
②食事会…洋風懐石(追加ドリンクは有料)
③ビンゴ…景品多数—(ビンゴ券1枚500円)
④エンターテイメント…声楽家・弓場 徹 様
- ◆会費 6,000円(学生3,000円) ※当日受付でお支払いください。
- ◆出欠届 往復はがきをお出しします。出席・欠席にかかわらず必ず返信してください。
※お問い合わせ等は、下記までお願いします。
戎井 恭子 副会長 電話・FAX 0797-31-5217
- ◆回答期限 11月19日(月)<必着>
※締め切りは厳守してください。できるだけお早目のお返事をお願いします。

- 【お願い】 ①ビンゴの景品提供にご協力をお願いします。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ちください。当日受付でお手渡しくだされば助かります。よろしく。
- ②書き損じはがきがございましたら、併せてご持参ください。

新入会員ご紹介

ご入会ありがとうございました。大歓迎です。

★小山 鎌 様(学生会員)

編集後記

平成最後の年の「年末講演会&親睦会」のご案内を差し上げる季節となりました。今年、皆様にとってどんな一年であったでしょうか？
振り返れば、雨の少なかった梅雨、長くて厳しかった夏の猛暑、西日本を襲った豪雨災害、全国大会のあった北海道の地震…。日本のあちらこちらで災害の続いた一年といった印象があります。ユネスコ本部からも、次々とお見舞募金の依頼が届きました。この芦屋でも台風の強風の影響で宮川が氾濫、呉川町や西蔵町が浸水の被害を受け、また海岸近くの町々は塩害被害による長時間の停電などの被害も…。
被害にあわれた会員の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。
来年こそは、平和で安らかないい1年であってほしいですね。
(南 ゆう子 記)